



マリンバイオ同好会 活動報告No. 6

～2010年12月～

◎ 飼育生物観察

小魚の隠れ家として入れた沈子(ちんし)へ、アカホシヤドカリが引っ越そうとしました。



【沈子に宿換えしたいアカホシヤドカリ】

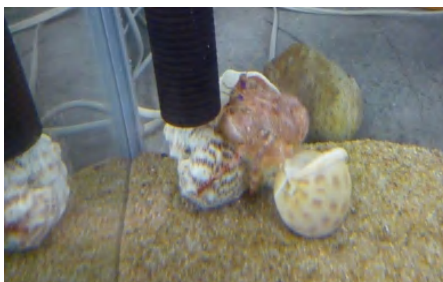
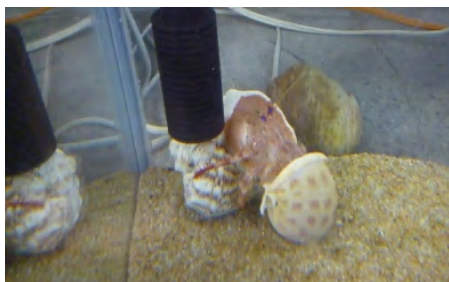
沈子に引っ越そうとかなり頑張りましたが、無理でした。そこで、貝殻(アカニシ)を入れてみました。さっそく引っ越せるかどうか、貝殻を調べ始めました。

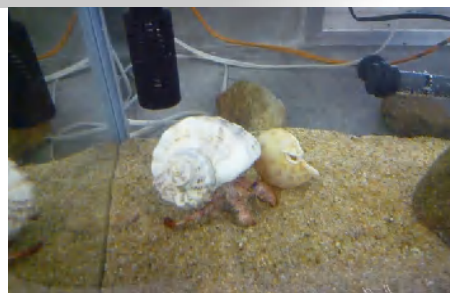


【貝殻投入】



【貝殻を調べる】



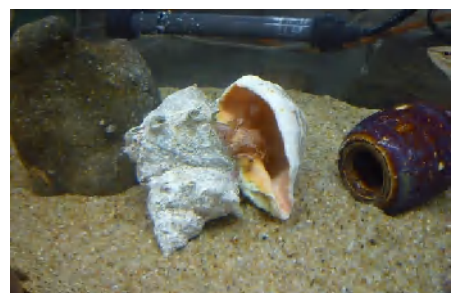
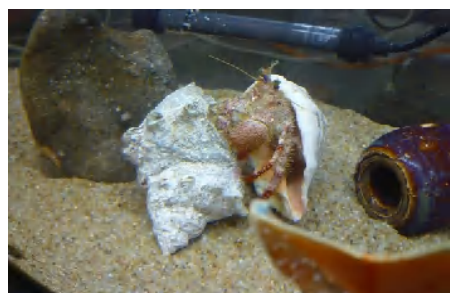
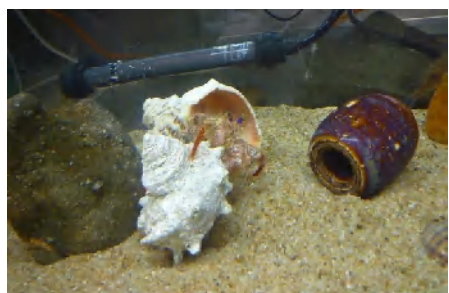


【引っ越し完了】

アカニシへの引っ越しが完了した後、再度沈子への引っ越しを試みましたが、諦めました。次にサザエに替えようかと、かなり悩んでいましたが、結局やめました。



【諦めきれない沈子】

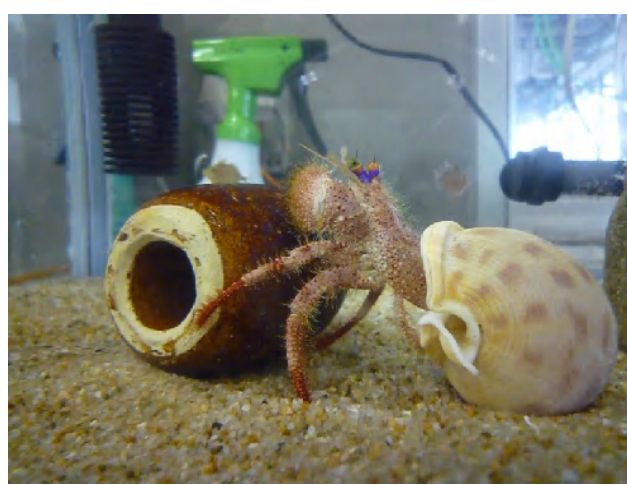


【サザエを調べる】

◎ 大好きな沈子



【沈子を覗くナベカとアカホシヤドカリ】



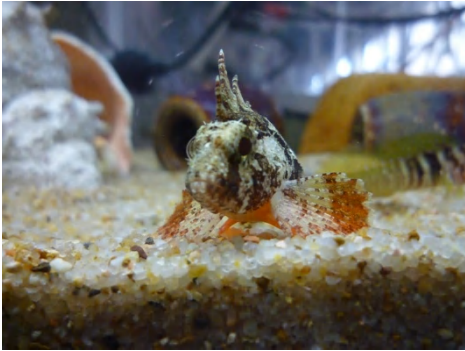
【沈子を転がすアカホシヤドカリ】

毎日沈子を転がしたり、覗いたりしています。そのたびに中に入っていたナベカが外に出されます。クモヒトデが沈子に入っていたこともありましたが、つまみ出されていました。

(※沈子: 漁網の下縁につけ、水中に沈める役割をするもの。岩、鉛の場合もある。)



◎ 飼育生物紹介



【ハオコゼ】



【ナベカ】

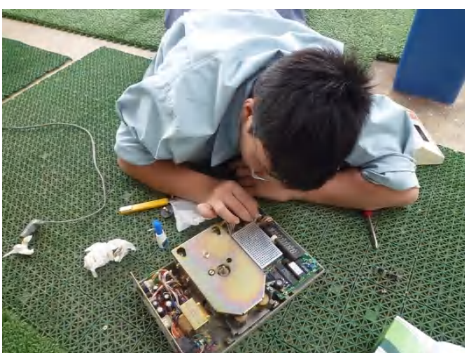


【ヨソギ】

いずれもアカホシヤドカリと同じ水槽、上部濾過式60cm水槽で飼育しています。現在は水温が下がり過ぎるため、18℃固定オートヒーターを投入しています。ハオコゼは背ビレに毒があり、換水時には注意が必要です。ナベカは美しい魚で、人にも良く慣れ、飼育しやすい魚です。沈子の中に居たのですが、アカホシヤドカリに追い出されてしまいました。ヨソギは熱帯域の魚ですが、最近ではこの海域でもよく見かけるようになりました。

◎ 第3回 栽培漁業実習棟1F準備室大掃除

12月23日、毎年恒例となった大掃除を行いました。デッキブラシでしっかり床を磨き、きれいになりました。



【大掃除の様子】



◎ 海洋棧橋魚類相調査

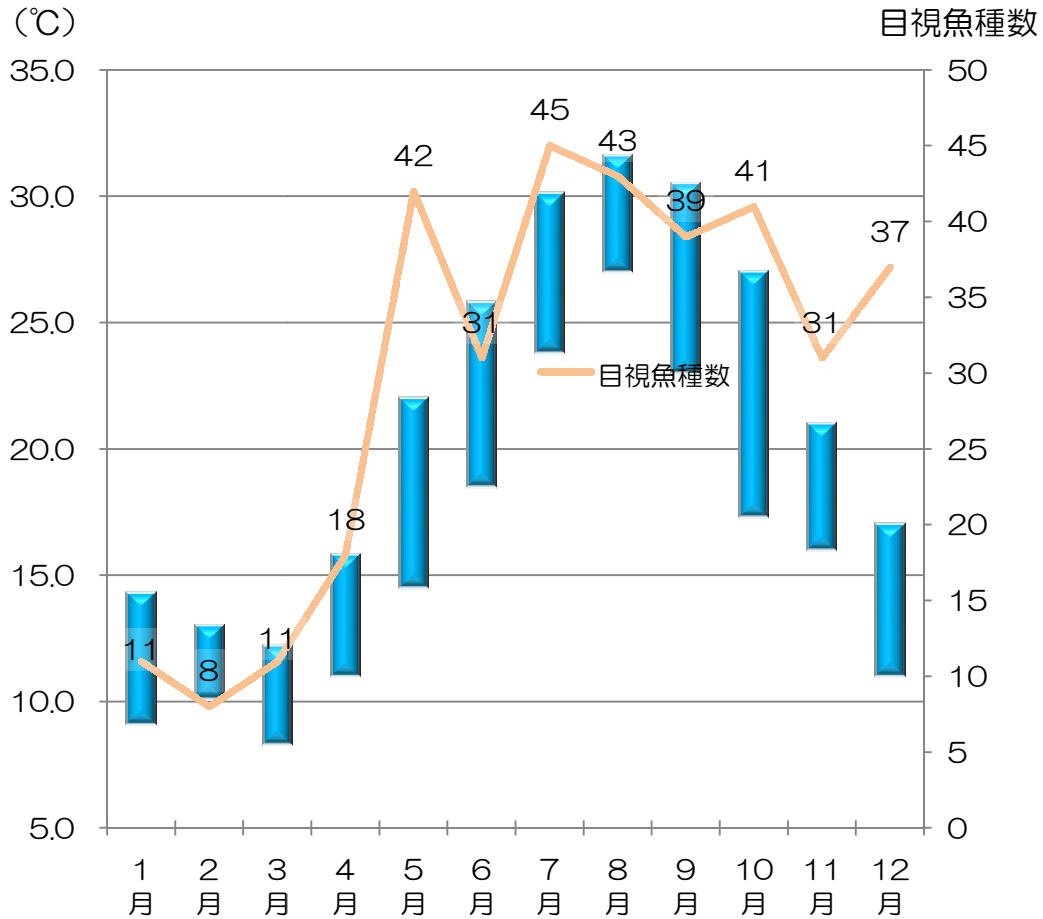
海洋棧橋で行っている魚類相調査の表面水温と目視魚種数をまとめてみました。

1月	水温が低く、目視数は少ない。
2月	水温が低く、目視数は少ない。
3月	水温が低く、目視数は少ない。
4月	水温が15℃を超えてきたあたりから目視数が増加するようになった。
5月	目視数が急激に増加する。この時期は産卵期のため、多種の稚魚を観察できた。
6月	目視数減少。梅雨時期であるため、水潮が影響している。
7月	目視できる種類が最高になる。
8月	水温が高くなりすぎて目視数がやや減少する。 目視される種類は多いが、魚影はかなり薄い。
9月	月下旬から目視数、魚影が回復する。
10月	急激に水温が下がり、下旬には目視数が減少した。
11月	水温が低いため、目視数が激減する。 波風の無い、穏やかな日にしか目視できなくなってきた。
12月	目視数が37種と多いのは、中旬までの凧の日に、今まで見られなかった南方系の魚が見られたためである。しかし、水温が急激に低下した中旬以降は、目視数が減少した。



◀ 海洋棧橋表面水温の変化と目視魚種数の変化 ▶

海洋棧橋表面水温（最高/最低）グラフ



2010年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高水温 (°C)	14.3	13.0	12.2	15.8	22.0	25.8	30.1	31.6	30.5	27.0	21.0	17.0
最低水温 (°C)	9.1	10.1	8.3	11.0	14.5	18.5	23.8	27.0	23.0	17.3	16.0	11.0
平均水温 (°C)	11.6	11.3	10.9	13.0	17.2	22.9	26.9	29.5	27.9	23.0	18.2	15.0
目視魚種数	11種	8種	11種	18種	42種	31種	45種	43種	39種	41種	31種	37種



《 濾過海水と海洋栈橋表面水温の比較 (°C) 》

